

# 母子健康手帳プロジェクト

BMCN 広報グループ

## 1. 母子健康手帳プロジェクトの目的

「母子健康手帳」の記述の中に、バイリンガル、マルチリンガル環境で子どもが育つ場合の言語発達について記述するよう、**厚生労働省に働きかける**こと。その下準備として、母子健康手帳のどのページにどのような記述があるとよいかを検討し、**具体的な提案**を作成すること。

## 2. 言語学的な背景

中島（2015）ほか多くの研究者の研究によると、多言語環境で育つ子どもにとって乳幼児期からのバイリンガル・マルチリンガル子育てとその後の教育が成功することが肝要である。そのためには、「教育分野」ではなく「母子保健」の分野の枠組みにおいて、養育者に正確な知識とノウハウを提供し、養育を支援することが必要である。その最も合理的なツールとして、広報グループは「母子健康手帳」に着目した（図1）



→ 母子健康手帳で見つかった他の画像

図1：  
グーグル検索で「母子健康手帳 写真」を引いた結果。自治体ごとの手帳の写真、教育用、親子手帳や父子手帳などのバリエーションもあった。

## 3. 母子健康手帳とは

1948年に導入され、母子健康法16条に則って厚生労働省が管轄し、全国の地方自治体で出産を控える母親に**無料で配布**される。保健所や医院で保健師・医師による健康診査と保健指導に有効に活用されている。ウェブサイトからダウンロードできる。



図2 名古屋市のウェブサイト



図3 教材用

名古屋市のウェブサイトは「お医者さんから妊娠届出書をもたらしたら、早めに母子健康手帳の交付手続きをしてください。」とある。

自治体は専門の出版社や印刷会社からまとめて購入する。表紙の絵柄は各出版元が工夫を凝らす。親子手帳・父子手帳・20年をつづる母子健康手帳などのバリエーションがある。

「株式会社母子保健事業団」が**看護学、助産師学校用の教材用**母子健康手帳を団体向けに販売している（図3）。

多言語版はベトナム語・英語・ハングル・中国語・タイ語・タガログ語・ポルトガル語・スペイン語・インドネシア語。1冊760円で株式会社母子保健事業団が販売。NPO法人HANDSと国際協力機構（JICA）のプロジェクトを通して海外にも普及が図られている。

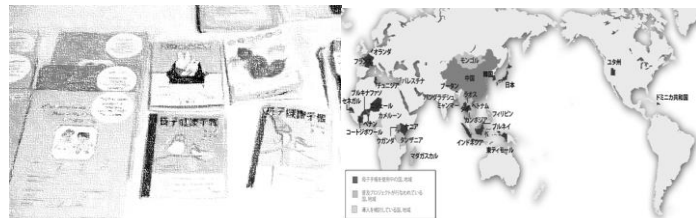


図4 多言語版の開発

図5 地球規模

URL <http://www.hands.or.jp/news/mch/>

図4は「第10回母子手帳国際会議」（2016年11月）で展示された過去の母子健康手帳や多言語版のもの。図5は母子健康手帳を導入している途上国（NPO法人HANDSウェブサイトより）。背景に牛島（2003）や横田（2012）の研究があったと思われる。

## 4. BM子育ての観点から見た問題点と提案例

乳幼児の言語の発達に関する記述はモノリンガルの場合が対象。多言語の子育てでは次の知識とノウハウ情報が必要。

- 1) モノリンガルでなく、バイリンガル・マルチリンガル環境の場合には、子どもの脳はどのように言語発達するのか
- 2) それはモノリンガルとどう違うのか
- 3) 高度バイリンガル・マルチリンガルとなる言語発達をうながすために、どうすればいいか。
- 4) 養育者が気を付けるべきことは何か。

- a. 1ページ目「妊婦の健康状態等」に母語を記入する欄を設ける。
- b. 3ページ目の同居人（兄弟、祖父母など）を記載する欄に、それぞれ母語とコミュニケーション言語を書く欄を設ける。
- c. 28ページの「保護者の記録【1歳の頃】」の項の一つ、「大人の言う簡単なことば（おいで、ちょうだいなど）がわかりますか。」に「両親の母語で」のような記述を加える。
- d. 一時的リミテッドに関する説明

## 今後の計画

- 1) 提案内容を全ページにわたって検討し、記述する
- 2) 専門家に見せて助言を受ける。
- 3) 法律が次に改訂されるときに、この修正を取り入れてもらうための方策を考え、働きかける。
- 4) 提案の仕方の戦略：ページ数を増やさない現実的な提案と詳細な解説のある理想的な案の2通りの提案が有効

以上

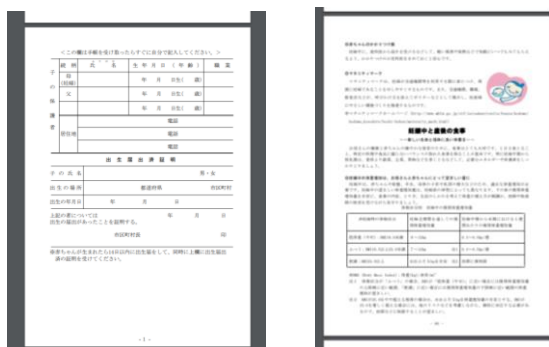
<参考資料・サイト>

- 1) 「母子健康手帳の様式について」(厚生労働省ウェブサイト)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/boshi-hoken/kenkou-04.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/kenkou-04.html)
- 2) 現在の母子健康手帳の発行のしくみ・現状(厚生労働省のウェブサイト)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/boshi-hoken/kenkou-04.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/kenkou-04.html)
- 3) 母子健康法(昭和40年施行、平成29年改正。)  
第十六条 市町村は、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならない。  
2 妊産婦は、医師、歯科医師、助産師又は保健師について、健康診査又は保健指導を受けたときは、その都度、母子健康手帳に必要な事項の記載を受けなければならない。乳児又は幼児の健康診査又は保健指導を受けた当該乳児又は幼児の保護者についても、同様とする。  
3 母子健康手帳の様式は、厚生労働省令で定める。
- 4) 「母子健康手帳の交付・活用の手引き」(研究代表者横山徹爾、平成23年)  
<https://www.niph.go.jp/soshiki/O7shougai/hatsuiku/index/files/koufu.pdf>
- 4) 多言語母子手帳のサイト・本(東京、神奈川)  
(昔はウェブサイトからダウンロードできるサイトがあったと思うのですが見つけれませんでした)  
<http://www.jomf.or.jp/pdf/2012/08/0003.pdf>  
[http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/born/born\\_parent.html](http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/born/born_parent.html)  
<https://www.mcfh.co.jp/material/search/category:6>  
<https://www.boshi-techo.com/service/> (アプリ)
- 5) NPO 法人 HANDS (Health and Development Service)  
<http://www.hands.or.jp/>  
(母子健康手帳を発展途上国に広める活動を行っている。  
<http://www.hands.or.jp/activity/mch/hb/>)  
2016年11月23日~25日には「第10回母子手帳国際会議」を開催し、「東京宣言」を採択した。  
(<http://www.hands.or.jp/activity/mch/hb/conf/10th.html>) <http://www.hands.or.jp/news/mch/20170207-tokyodec.html>
- 6) 東京新聞(2018年2月22日夕刊)「日本発 生命の国際貢献 母子手帳、40カ国・地域に」  
<http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/201802/CK2018022202000270.html>

<参考文献>

- 1) 中島和子(2015)『バイリンガル教育の方法-12歳までの親と教師ができること』アルク
- 2) 桶谷仁美(2007)「家庭でバイリンガルを育てる-0歳からのバイリンガル教育」明石書店
- 3) 牛島廣治(2003)『多民族文化社会における母子の健康に関する研究』(厚生労働科学研究平成14年度研究報告書)
- 4) 横山徹爾(2012)『乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究』(厚生労働科学研究費補助金平成23年度研究報告書)【注:交付・活用手引きのもとになった研究】
- 5) 蟹江憲史監修(2018)『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』p.46-47  
NPO 法人 HANDS と JICA(外務省外郭団体、国際協力機構)の取り組み(多言語版の開発と発展途上国支援)  
<http://www.hands.or.jp/news/mch/sdgshands.html>

<母子健康手帳の中身 サンプル>



- ① 省令様式
- ② 任意様式

<一般向けの子育て支援サイト>

- 1) どうする子育てぎゃっぷ むかしはね、今はね  
<http://oya-ko-mago.ib.craps.co.jp/gap/babyhood/1114.html>  
母子健康手帳について調べた参考文献がのっている。

参考) 海外の子育て支援のサイト

- 1) “Multilingualism” *Zero to Three*  
<https://www.zerotothree.org/>  
子育て支援サイト。この記事には多言語の場合、脳にどのようなよいことがあるか、記述されている。
- 2) Manual for Educators Multilingualism in Early Childhood Education Game Instructions and Areas of Application for Kids2Talk  
[http://rcel.enl.uoa.gr/docsforpeap/manual\\_for\\_educators.pdf](http://rcel.enl.uoa.gr/docsforpeap/manual_for_educators.pdf)  
ギリシアのアテネにある国立・カポディストリアン大学英語教育学部のRCeL(言語教育・テスト・測定研究所)が作成したもの。  
★東京都の「子ども手帳」など、子育て支援は散見するが、バイリンガル・マルチリンガルの視点が含まれるものは見当たらず。